

あおぞら

発行：愛知県被災者支援センター

住所：名古屋市中区三の丸 3-2-1

愛知県東大手庁舎 1階

TEL：052-954-6722

FAX：052-954-6993

開館：月～金 10～17時



タイトル「楽しかった冬休み」



(小学校1年生 あきさん)

◇表紙に掲載する子どもの描いた絵を募集しています◇

絵を送る際に、①絵のタイトル ②絵の説明(30字程度) ③掲載するお名前 ④学年(年齢) ⑤保護者の方の連絡先(氏名・メールアドレスまたは電話番号)を明記のうえメールまたはFAXにて送ってください。

リレートーク

震災から3年が過ぎ、愛知県に避難している方たちは今、どんなことを感じ、何を考え、何をしているのでしょうか。共感や新たな気づき、次につながる何かを見つけるきっかけになって欲しいという思いで、同じ愛知県に避難している方の今をリレー形式で紹介していきます。

自分たちの欠片を探して

先日、子供達の母校へ3年8カ月ぶりに教室に残された私物・学用品の引き取りに保護者のみで行ってきました。

子供達は15歳未満のため福島第一原子力発電所から10kmほど南に位置する小学校へは立ち入る事ができません。

教室の黒板には2011年3月11日（金）の日付けと当日が日直だった娘の名前が今も残されていました。



帰りの会の最中に大きな地震がやってきました

震災当日に描かれた「自分の手」の絵と今の自分の手と比べてみたり、当時使っていた学校ジャージを身体に当ててみてはしゃぐ子どもの姿に流れた時間の重みと成長の喜びを感じます。

ぽっかりと空いていた、あの時の自分を取り戻し笑顔に溢れた様子を見て、行ってきてよかったなと思います。

夫婦共に福島県で育ったわけではありませんが、ここに骨を埋めようと決めて移住した福島県。

数年間の生活でできた友人・知人との御縁は続いており、その事を感じ取るたび愛知県での生活の心の支えとなっています。

矢のごとく過ぎてゆく時の中で自分だけがスローモーションで生きている、日々を淡々と過ごすだけでは淋しいと思い「あおぞら」の編集委員に参加させていただいたり、交流会のお手伝いやアロマハンドトリートメントを参加者、支援者の方々にさせて頂きながら“生きている、活かされている”瞬間を感じています。

あなたも「あおぞら」の編集委員になってみませんか？被災状況や行き先の見えない悩みも千差万別ながらも、都合のつく時に集まって協力しあっています。その中で雑談したり、お茶をしたりして親交を深めています。

興味のある方は愛知県被災者支援者センターへ是非お問い合わせください。

新しい仲間が増えるのを待っています。

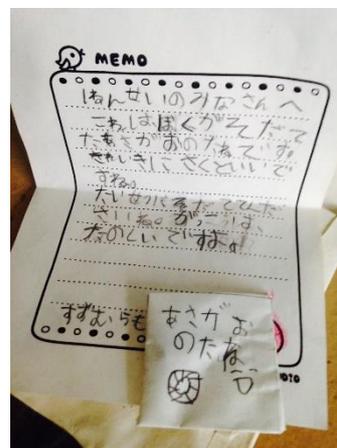
(あおぞら編集委員 鈴木ユカリ)



校庭には二宮金次郎の石像の隣に空間線量を測る機会が設置されています



受付で学用品を持ち出す前にサーベイしているところ



1年生の教室で息子の朝顔の種を見つけました。次年度の1年生のために種をプレゼントするものでした。

全体交流会報告

英気は養われましたか？

今年度も昨年同様の三河湾リゾートリンクスで全体交流会を開催することができました。参加者は昨年より若干少ない 93 世帯 267 人でした。

「カレンダーに赤丸印をして、この日を楽しみにしていました」という方、1 年ぶりの友人との再会に抱き合って喜ばれた方など、ホテル入口の受付では、早速皆さんの笑顔がこぼれ落ちていました。ただし残念なことに、インフルエンザのため、やむなくキャンセルされた方も少なくありませんでした。

震災からまもなく 4 年という長きに亘る避難生活で、身体と心は、意識する・しないに関わらず、想像以上に疲れていらっしやるのが垣間見えました。それを参加者同士でのおしゃべりですっきりされたり、新たなお友だちと出会って携帯番号を交換されたり、また、医師や弁護士などの専門家にそれぞれの不安や問題点を真剣に相談されたりする姿がありました。一方、子どもたちは、ボランティアのお兄さんやお姉さんと思いきり遊んでいました。子どもは子どもなりに現在の状況を理解しようと、その小さな胸で一生懸命受け止めているのでしょう。その気持ちを発散しているようにも映りました。中には別れ際に「帰りたくない」と泣き出す子もいました。そして、多



メインの会場に集まって交流会



センター長挨拶

くの方々はゆっくりと温泉につかって、お部屋で仲間同士や一家団欒の時間を楽しまれました。

食べて、飲んで、しゃべって、笑って…、くつろぎの時間はあっという間に過ぎましたが、年に一度のこうした交流の場は、なくてはならない安堵できる機会なのだと改めて感じました。今回も、当センターの他、当該地の西尾市をはじめとする 170 名ものボランティアさん、そして協賛いただきました生協や企業など、本当に多くの方々のご理解とご協力をいただいで実施することができました。厚く御礼を申し上げますと同時に、これだけたくさんの方々が、皆さんに対する思いを変わず継続されているということ、どうか励みにしていただきたいと願っております。

盛況のうちに無事全体交流会は終了しましたが、これからも続く普段の暮らしの中でも、いつでも「誰かに相談したい」「同じ境遇の人と話したい」「センターを訪ねてみたい」など、お一人ひとりの様々な声を、ぜひセンターまでお届けください。私たちや多くの支援者はいつでも皆様のそばにいます。さあ、明日からも元気に頑張っていこう！

(愛知県被災者支援センター長 栗田暢之)

全体交流会報告（ふるさとサポーター）

「ふるさとサポーター」がさらに「進化」!?

今年度も、避難者の中から手の上がった8名がボランティアスタッフ「ふるさとサポーター」として、企画段階から相談を重ね、準備から当日の担当までそれぞれの持ち場で活躍しました。交流会場への参加者の集まりが遅く、最初は心配しましたが、時間と共にふるさとサポーター企画のコーナーはそれぞれ大盛況でした。

まず、似内さん（蒲郡市）のパッチワークキルトの大作がロビーや体験コーナーなどに展示されて、会場の雰囲気をごまかせました。三浦さん（名古屋市）のデコパージュ体験も満席で、子どもたちやファミリーの順番待ちの行列ができ、体験後は自作のきれいな石鹸を手に嬉しそうでした。

また、他の交流会でも好評の鈴木さん（名古屋市）とボランティアさんによるハンドトリートメントや松本さん（尾張旭市）の整膚も、予約がすぐに埋まってしまう状況で、「残念…」とため息をつきながら帰ってくる人が続出。やはり癒し系のコーナーは大人気で、ゆったりとした時間の中でのマッサージや施術、おしゃべりで身も心もほぐされ、元気を回復されたようでした。

今年の交流会場は、現在お住まいの市町村ごとのセッティングとしましたが、話題のテーマ別の席も準備しました。特に『健康』のテーマでは、担当の渡辺さん（名古屋市）と増田さん（名古屋市）を中心に多くの人に参加して、専門家・医師の松井英介さん・和子さんを囲んで

「健康手帳」や放射能の影響についての相談や情報交換などが長時間続けられました。

（ふるさとサポーター・
ボランティア 戸村京子）



わたしなりに続けていきたい交流のかた

アロマハンドトリートメントは、13時から17時まですぐに予約で埋まって、多くの方をお断りせざるを得ませんでした。

リピーターさんと初めての方、半々くらいの割合で来ていただき、初めての方の中には通訳・外国人支援の神田さんの声かけのお陰で外国籍の方が3名もいらっしゃいました。男性がユーモアある発言をされて、私達みんなの笑いを誘ったりして、身構えていた緊張感がすーっと消えていくような感じがしました。

若い夫婦が幼い女の子と来ていただいたときは、ご夫婦は向かい合わせに、女の子はお母さんのひざの上にちょこんと座ってもらいました。いっぱいいるおばちゃんたちに人見知りすることもなく、大切そうに持っているアンパンマンのジグソーパズルを見せてくれたり、おしゃべりをしたり、途中ひざの上から降りてスタッフと遊んでくれるほど打ち解けて、本当にかわいらしく終始みんなの視線を集めていました。こちらも癒されました。

私は持ち場に付きっきりで他のコーナーに行けませんでした。ちらっと様子を見てみると、参加された方はものづくりに没頭したり、お話が弾んでいるように見えました。

ふるさとサポーターとして、みなさんの目的や関心のある分野を活かしたコーナーを持たことで、昨年から言われていた世代や立場を超えた交流に繋がっていったのではないのでしょうか。

（ふるさとサポーター・
アロマハンドトリートメント担当
鈴木ユカリ）

アロマハンドトリートメントで
心身ともにリラックス

全体交流会報告（託児ボランティア）

経験

僕には4才の妹がいます。今回託児ボランティアとして活動させていただくにあたり、自分の妹と接するように遊んであげようと思っていました。

会場では、最初僕は案内係を割り当てられました。初めて会う方たちを案内する時にはできる限り安心させてあげようと思い、なるべくこちらから話しかけるようにしました。話をした子どもさんたちは「去年も来たんだよ」とか「海でカニ探しをしたい」などと言ってとても楽しみにしていた様子でした。

僕が担当をさせていただいたお子さんは3歳の男の子でした。まだ、まだ幼く自分の気持ちをちゃんとした言葉で伝えられなかったので、こちらのほうから何をしたいのか選択肢を与えて聞きだしました。そして本人の希望で海辺に行き、そこで一緒に遊びました。また、ホテル内に戻ってからは、プラレールに惹かれ、それに夢中になっていました。



プラレールに夢中



お兄さんに料理を取ってもらいます



お兄さんお姉さんたちと近くの砂浜へ

昼食の時は、エビフライが出されましたが、その子が一匹を丸ごと一人で食べるのには大きすぎると思い、小さく切ってあげました。また、「トイレに行きたい」と言った時、小さい子は自分でお尻をふけないことを思い出したので、自分が満面の笑顔でやさしくふいてあげました。とてもすっきりした様子でうれしい表情をしてくれたので、自分は「普段自分の妹にしてきていることがここで役に立ってよかった」と満足感を覚えました。

海辺に行った時はとても緊張しました。母親から任されたお子さんに絶対怪我をさせてはいけないと思い、細心の注意を払いました。でもその子は海辺でこちらの心配をよそに、本当に元気に走り回っていました。

愛知で避難生活をしてみえる3名の方たちに実際の災害の様子を伝えていただく時間がありました。それぞれの方の実際の体験に基づいたお話は心にしみいるものがありました。

今回のボランティアで、新しい経験と有益な知識を得ることができました。来年度もぜひ参加させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

（愛知県立西尾東高等学校1年 大西智己）

全体交流会報告（託児ボランティア）

大切な一日

今回、託児係のボランティア参加をして、久しぶりに子どもたちと遊んだり話したりでき、とても楽しく一日を過ごすことができました。しかし、子どもたちはとても元気で疲れを知らず走り回り、親というのは大変なんだと実感することができました。また、実際に震災に遭い、愛知に避難されてきた方たちの話を聞き、今まで私たちの知らなかったことや体験された方しか分からないことなどについて貴重なお話を聞くことができ、とても有益だったと思ったのと同時に、まだまだ私たちが知らないことがいっぱいあり、もっと今の東北地方の方たちが置かれた状況を私たちは理解していかなければいけないのではないかと考えました。

託児係のボランティアに参加していて「自分の妹や弟のように接してあげてください」と言われ、その言葉が今でも頭に残っています。この言葉を聞いてからは、自分が少しでも遠慮していたら子どもたちも本気で楽しめないだろうと思い、自分の弟妹のように子どもたちと接しました。自分が本気で楽しむという気持ちで接したら、子どもたちも本当に楽しんでくれました。

実際に東北地方に行きボランティア活動をするには長期休みでないといけないけれど、今回のようなボランティアなら私たちもすぐに参加できるので、もっとさまざまなボランティア活動に加わり、少しでも多くの方のためになれたらと思いました。

この日は私にとって、とても大切な一日となりました。来年もまた参加したいと思います。

（愛知県立西尾東高等学校 1年 兵藤京香）

貴重な体験

僕は昨年引き続き、今年も東日本大震災によって愛知県に避難されて来られた方々の全体交流会での託児ボランティアに参加させていただきました。

僕が担当したのは小学校3年生の男の子でした。初めは緊張からか、うまくコミュニケーションが取れませんでした。けれど、一緒に折り紙でこまを作ったり、砂浜でフリスビーなどをして遊んでいると、次第に心を開いてくれるようになり、学校での生活や家族のことなどを楽しそうに話してくれました。また、帰る時には笑顔で「ありがとう」と言って握手をしてくれました。とても嬉しく、心が温くなりました。また、僕たち高校生に避難されて来た方たちから直接お話をしていただき、震災から4年が経過しようとしている今でも解決しなければならない多くの問題や取り組まなくてはならない課題が残っていることを知りました。また、当時の写真を実際に見せていただき、改めて地震の怖さ、恐ろしさを実感しました。このような貴重なお話はなかなか聞くことができないので本当に有意義で、これからの自分の生活に生かしていきたいと思いました。

数時間という短い時間でしたが子どもとふれあい、東日本大震災の話聞くことができ、とても充実した時間を過ごすことができました。

（愛知県立西尾東高等学校 2年 畔柳 司）



バルーンアートも大人気

全体交流会報告（託児ボランティア）

たくさんの人とふれ合って

今年も託児係のボランティアをさせていただきました。去年とは違い、高校生二人組で子どもを一人または二人を預かるというものでした。これにより午後に避難者の方の話を交代で聞かせていただくことができました。これも去年にはなく今年からの企画でした。

まず、避難者の方の話についてですが、直接被害にあった地域だけでなく、それ以外の関東の地域でも放射線で悩まれたこと、また災害に対する政治の不十分・不適切な対応など、テレビのニュースだけでは得られないお話を聞くことができました。このことによって災害への自分の関心が深まりました。

そして、託児ボランティアについてです。私たちが預かったのは小学校6年生の女の子でした。一緒にペアになった後輩は今回の参加が初めてでした。

去年は預かる子どもが高校生の数よりも少なかったため、私自身はほとんど子どもたちと接することがありませんでした。だから、今回が実質上初めての託児体験となり、最初は不安でした。でも、年齢が近いということもあって、じきに緊張感が取れ、いろいろ話をしながら楽しく遊ぶことができました。妹と遊ぶという感覚を楽しめました。お世話をさせていただいた子はとても心が優しく、別れるときにはメッセージ付の貝殻を渡してくれました。

避難者の方たちとふれあうことで災害についてはもちろんのこと、これからの日常についても得ることがたくさんありました。

またこういうふうにはたくさんの人たちと話をしたり、ふれあう機会があれば参加したいと思います。

（愛知県立西尾東高等学校2年 佐藤有香）



みんなでぬり絵をしました

託児支援に参加して

私たちの団体は、前回に続き参加させていただきました。2回目ということで、多少のゆとりを持って子どもたちと接することができました。最初に感じたのは、参加された子どもたちの中に、高校生と一緒に遊ぶことに対して、安心感みたいなものがあるなあということでした。でも、高校生の語り掛けにどうしても言葉が出ない子どもたちもいました。そんな時、高校生も楽しめる遊びがあれば、高校生同士の会話が弾み、一緒にいる子どもたちの緊張感や不安な気持ち少しづつほぐれ、お互いの距離が縮まりやすいのではないかと思います。子ども1人に対して高校生2人という組み合わせも、とても良かったと思います。私たちにとって良かったことは、託児ボランティアの人たちも2回目でお互いの雰囲気を知っていたことです。風船のお兄さんたちが突然登場した時も、皆で盛り上げることができ、会場の空気が和やかになり、子どもたちの笑顔が見られました。

反省点は、泣き止まない幼児たちへの対応です。対応の仕方を皆が共通認識していれば、もう少しうまく対応できたかなと思いました。

今回一番良かったことは、参加者のお話を聞いたことです。特に若い人たちに“伝える”ということは大切なことなので、可能であればこれからも続けていただきたいと思います。

貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

（Kiraまちづくり応援隊はじとび 石川）

全体交流会報告（ボランティア）



交流会・体験コーナーなどで思い思いの時間を過ごしました

第4回 全体交流会に参加して

昨年に引き続いて三河湾リゾートリンクスでの開催でした。

震災から4年、もうすぐ5年目になります。その年に生まれ、初めての交流会ではお母さんに抱っこされていた赤ちゃんも、今年は3歳となり元気に走り回っていました。この4月にはお母さんの手を離れ 年少さんとして幼稚園、保育園に通い始めることでしょう。そして、幼稚園、保育園に通っていた子どもたちも多くが小学生。

早いものです。みんなお母さんやお父さんの愛情に支えられて立派に成長しています。

そんな姿は私の孫たちと重なります。何をやらかしても許してしまう。私にとってはそんな交流会でした。

子どもさんの進学などに合わせて、借り上げ住宅から新居へと移る予定の方のお話を伺いました。故郷への想いは益々強くなるけれど、

子どものため、前を向いて一歩ずつ、「心機一転」とはまさにこのことでしょう。ご家族のがんばりに大きなエールを送りたいと思います。

反面、以前の交流会では見かけていた家族が、今回は参加されていないのが気がかりでした。今年はインフルエンザの流行と重なったため、直前の欠席となった方もおられるとは聞いていました。が、大交流会でしかお会いできていなかったご家族の顔がみられなかったのは少々寂しく思いました。次回の交流会もしくは他でお会いした時には、ぜひ元気なお顔を見せて頂きたいと思います。

みなさん、今回の交流会はどうでしたか？来年も元気な顔で再会できるよう、これからの一年、辛い時は踏ん張り、楽しい時はみんなで笑い、そして頑張りましょう。

みなさん、そして元気いっぱいの子どもたち、ありがとうございました。

（ボランティア 今井田正一）



元気いっぱい走り回る子どもたち



新鮮&安心な食材と出会いたい!

あいちの産直施設 お出かけガイド

第9回
南知多&田原の巻



編集:あおぞら編集部

今回は、海辺の知多半島南部と渥美半島にある施設をご紹介します。両地域とも温暖な気候に恵まれ、青果・果樹は元より、花きや畜産業まで幅広く生産が行われているのが特徴です。知多地域はフキの生産が日本一で、春の到来を告げるふきのとうも出荷中。両地域とも風光明媚。多彩で新鮮な青果の入手のほか、春の花々との楽しい出会いの場、暖かくなってきた日の外出先の候補にもなりそうですね。



ピックアップ ⑧サンテパークたはら産直広場 ふれあいのMORI(もり)

営業時間: 9:30~17:00 毎週木曜定休 TEL 0531-24-5400

地元の農家が育てた朝採りの新鮮な野菜や、特産品がずらりと揃う産直施設で、なばな、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、レタス等が旬を迎えています。また、それら食材を活かした料理を「旬採ダイニング Mogu」がバイキングスタイルで提供しています。日本一の出荷量を誇る花々もなれば、敷地内には温室もあるほか、体験農場や料理教室等、体験型プログラムも盛ん。第4日曜(次回 3/22 9:30~)にはフリーマーケットもあります。



▼公共交通: 豊橋鉄道渥美線「三河田原」駅から、毎時、循環バスが出てきます(所要 28 分、乗車料金 100 円)

<耳より情報> 野菜等を栽培したいけど土地が・・・と思われる方、各市町にある「市民農園」の制度をあたってみてはいかがでしょうか。年間 2,000 円~1 万円程度で小面積の農地が活用できます。愛知県農業経営課のサイトには、県内 324 もの農園のリストが掲載。「体験農園」や「講習」等の仕組みがある農園もあります。URL <http://www.pref.aichi.jp/nogyo-keiei/secondlife/list.html>



南知多&田原の産直施設

| No | 施設の名称 | 所在地住所 | 休業日 | 営業時間 | 連絡先 |
|----|------------------------|------------------|-----------------------|---------------------------------------|--------------|
| ① | ファーマーズマーケットプリオ | 半田市吉田町4-173 | 水曜 | 10:00~18:00 | 0569-20-5410 |
| ② | グリーンセンター鬼崎 | 常滑市新田町5-64 | 水曜 | 9:00~18:00 | 0569-42-1199 |
| ③ | グリーンプラザ常滑北部 | 常滑市久米字後田133 | 月曜 | 4月~9月 9:00~18:00 10月~3月 9:00~17:00 | 0569-43-5304 |
| ④ | 多賀の里 | 常滑市苅屋字洞の脇126 | 水曜 | 9:00~15:00 | 0569-89-2416 |
| ⑤ | グリーンプラザみさき | 南知多町大字片名字長谷44-15 | 水曜 | 4~9月 9:00~18:00 10月~3月 9:00~17:00 | 0569-63-3003 |
| ⑥ | 師崎漁港朝市 | 南知多町大字師崎字林崎 | 水曜 | 8:00~12:00 | 0569-63-0349 |
| ⑦ | グリーンセンター武豊店 | 武豊町字向田60-1 | 水曜 | 9:00~18:00 | 0569-72-1631 |
| ⑧ | サンテパーク田原ふれあいのmori | 田原市野田町芦ヶ池8 | 木曜、 (祝祭日の場合翌日) | 9:30~17:00 | 0531-24-5400 |
| ⑨ | JA愛知みなみ ふれあい広場 渥美店 | 田原市福江町仲田26-1 | 火曜 (夏場は無休) | 9:30~17:00 | 0531-32-1151 |
| ⑩ | 田原めつくんはうす ふれあいマーケット | 田原市東赤石5-74 | 年中無休 | 9:00~19:00 | 0531-23-2525 |
| ⑪ | たべりん王国 | 田原市大草町茶園12-7 | 年中無休 (12/31~1/1除く) | 9:00~16:00 (受付9:00~15:00) | 0531-24-0133 |

●愛知県で把握しているこの地域の産直施設で営業期間が長いものを上記で紹介しました。県農林政策課 (TEL 052-954-6395) が制作したインターネットサイト「あいちの農林水産 産地直売所・ふれあい体験施設」では 300 もの全施設がご覧になれます。URL <http://www.pref.aichi.jp/0000003150.html>



旬のお出かけ情報

～ 花の名所 ～



全国の中でも温暖な季候の愛知県。早春から一足お先に花の季節を迎えます。
暖かな春の陽気に誘われて花を訪ねてみませんか。

今号では、綺麗な花が咲き誇る名所をご紹介します。



佐布里池梅林の梅

< 花の名所 > 表の見方…①見頃②所在地③問合せ先④紹介

愛知県植木センター

梅



- ①2月下旬～3月中旬
- ②稲沢市堀之内町花ノ木 129
- ③0587-22-1414 (稲沢市観光協会)
- ④稲沢市は植木、苗木の産地として知られています。104種類、200本余りの梅が植栽され、全国的にも大変貴重な見本園です。

佐布里池^{そぶりいけ}梅林

梅



- ①2月中旬～3月中旬
- ②知多市佐布里台 3-101
- ③0562-54-2911
- (佐布里緑と花のふれあい公園「梅の館」)
- ④梅まつり期間中(3月15日(日)まで)は出店が並びます。

伊良湖

菜の花



- ①1月中旬～3月中旬
- ②田原市伊良湖岬周辺
- ③0531-23-3516 (渥美半島観光ビューロー)
- ④渥美半島菜の花まつり期間中(3月31日(火)まで)は周辺の店舗で菜の花料理が楽しめます。

大縣神社

梅



- ①2月下旬～3月中旬
- ②犬山市字宮山 3
- ③0568-67-1017 (大縣神社)
- ④寒紅梅をはじめ、紅梅・白梅 300本が咲き誇る時期には「梅まつり」が開催されます。

フローラルガーデンよさみ

ミニスイセン



- ①1月中旬～4月上旬
- ②刈谷市高須町石山 2-1
- ③0566-29-4330 (フローラルガーデンよさみ)
- ④イングリッシュガーデンや温室で、一年を通して様々な種類の花が咲きます。

デンパーク

チューリップ



- ①1月中旬～4月上旬
- ②安城市赤松町梶 1
- ③0566-92-7111 (デンパーク)
- ④花の大温室フローラルプレイズではデンマークの街並みを再現しています。

猿投山山麓

桃



- ①3月下旬～4月上旬
- ②豊田市舞木地区
- ③0565-34-6642 (豊田市観光協会)
- ④約2万本もの広大な桃畑に、淡いピンクの花が咲き誇る景色は圧巻です。

香嵐溪

カタクリ



- ①3月下旬～4月上旬
- ②豊田市足助町飯盛
- ③0565-62-1272 (足助観光協会)
- ④飯盛山の北西の斜面約0.5haに群生する薄紫色の花と香りが一面に広がっています。

●詳しい情報は愛知県観光協会のホームページ

(<http://www.aichi-kanko.jp/index.asp>) からご確認いただけます



スタッフ紹介 ～事務局 森本佳奈～

支援センターのスタッフがどのような経緯や思いでセンターの仕事をするようになったかを紹介していきます。第9回は事務局スタッフの森本佳奈です。



支援センターに関西弁のスタッフがいるな、と思ったらおそらく私です。関西弁のようですが三重弁（正式には松阪弁）です。

2011年2月22日、ニュージーランドで発生した地震は、その4ヶ月前まで私がワーキングホリデーで滞在していた町を襲いました。「何かしたい」と思いつつ、何もできずにいた中で起きたのが東日本大震災です。「ニュージーランドに行くのは難しいけど東北は行ける」と思い動く中、地元三重で岩手県山田町と三重に避難されてきた方への支援活動に関わらせていただくことになりました。その時に支援センターとの繋がりはあったのですが、まさか自分がそこで働くことになるとは思ってもなく、いろんな縁があるなと感じています。

名古屋暮らしももうすぐ1年になりますが、元々三重の田舎育ちなので、まだ慣れない部分があります（特に名古屋市内の運転がドキドキします）。愛知で皆さま含め多くの方との出会いがあり、一つひとつを大切にしていきたいと思っています。

支援センターからのお知らせ

<3月の交流会等イベントカレンダー>

| 3月 | イベント名 | 開催地域 |
|------|--------------------------------------|------------------|
| 12 木 | ママに贈るハッピー講座 | 岡崎市 |
| 14 土 | 今あなたの感じているままの 想いを語る場 パッチワーククラブ | 名古屋市中区 名古屋市東区 |
| 15 日 | ふれあいひろば小牧 | 小牧市 |
| 17 火 | ママに贈るハッピー講座 | 岡崎市 |
| 21 土 | 囲碁クラブ | 名古屋市東区 |
| 28 土 | パッチワーククラブ | 名古屋市東区 |
| 25 水 | 里山を歩きましょう | 名古屋市千種区 |

- 詳しくは定期便に同封のチラシをご覧ください。
皆様のご参加をお待ちしております。

あおぞらに関する <宛先>はこちら

(表紙の絵、ご意見・ご感想など)

〒460-0001
名古屋市中区三の丸 3-2-1
愛知県東大手庁舎 1階
愛知県被災者支援センター
TEL : 052-954-6722
FAX : 052-954-6993
E-mail : aozora@aichi-shien.net

